

News Letter

VOL.2
2016年4月号

仕事と家庭の両立について 伊野副センター長



医学教育文化部門
(医学教育研究)
教授

私は独身でしたので、この活動に参画するまで、誤解を恐れずに言えば、自分が「女のおじさん」であることに気が付きませんでした。徹夜しようが、週末もぶつとうで働くが、好きなだけ仕事が出来るのです。労働こそ美德と考えていた高度成長期の申し子でした。しかし、子育てや介護といった多重タスクのかかった労働者は自分の時間を100%自分のキャリアのために使うわけには行きません。私の場合は認知症の親の介護が始まって初めて気が付きました。自分の時間がなくなるのは当然ですが、例えば、市役所等の諸団体は週末は開かないでの、休日があっても手続きは全く出来ず、かといって平日に休みを取ることも憚られ苦労しました。こういった事情は当事者となって初めてわかります。しかも、どれも数日、数か月で解決するものではありません。ですから、その両立のためには、当事者でない方々の意識改革も必要ですが、何より子育て中、介護中の私達が「権利と義務」この両方を果たし、それ以外の方々の不安を払拭し、お互いがwin-win(昨今、軽々しい響きで人々の口に登りますが、システム論の中では大切な概念です。)を享受出来てこそ、真の男女共同参画であると思います。

キャリア支援センターでの仕事 明石副センター長



内科学
(循環器内科)
教授

私が結婚したのは今から11年前、妻も仕事をしていましたが、当時は大変だったと振り返ることがあります。自らが育児や家事に参加するようになり、子育て支援を受ける当事者となって初めて学んだことがいくつもありました。幸い、今の医局員は第一線の臨床医であると同時に、家族ために時間を費やすことに対して理解のある人が集まっています。そして、男女を問わず、予期せぬ事態になった時はお互いをカバーするに至ります。しかしながら、マンパワーに依存しているのも事実であり、本当の意味では平等でないと認識しております。キャリア支援センターに所属する機会を得、色々な部署からの声が聞こえるようになりました。女性医師の活躍に注目が注がれる一方で、介護による職場離れは大きな社会問題となっています。既存の考えを改めながら進化させ、男女ともに仕事をサポートできるような体制を組みたいと思います。そのためには、職員全員がお互いの立場を尊重し、理解することが必要です。どこにいても自らの権利を主張でき、今まで聞きづらかったことや言いつらかったことをよりdiscloseできる環境作りこそが、私に課せられた使命と心得ます。

今まで以上に男女共同参画でのキャリア支援にご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。

HPリニューアル 平成28年4月、HPをリニューアルしました！！

The screenshot shows the homepage of the Marianna University Career Support Center. It features a top navigation bar with links for 'Top', 'About Us', 'Role Models', 'Childcare and Caregiving Systems', 'Events', 'FAQ', and 'Contact'. Below the navigation is a main menu with categories: 'About Us' (highlighted in red), 'Women Researchers', 'Childcare and Caregiving Support', 'Role Model Introduction', 'Childcare and Caregiving System', 'Events', 'FAQ', and 'Contact'. At the bottom, there's a 'Notice' section.

センターの紹介をしています。

ロールモデルを紹介をしています。

育児・介護制度の紹介や手続き方法、国の制度などを掲載しています。

講演会や意見交換会のお知らせを掲載します。スタッフメール、掲示等でもお知らせいたします。

「問合せメール」では、仕事や修学上におけるさまざまご相談やご質問をお受けいたしますので、遠慮なくご利用ください。



仕事と介護の実態調査 集計結果概要

平成27年11月に実施しました「仕事と介護の実態調査」については、教職員皆様のご協力で多くの意見を頂く事ができました。集計結果の概要について報告いたします。(HPに掲載しております。)

平成27年11月に実施しました「仕事と介護の実態調査」については、教職員皆様のご協力で多くの意見を頂く事ができました。集計結果の概要について報告いたします。

介護経験者の介護休暇・休業の利用率は少なく、有休利用や部署によっては管理者のマネジメント(勤務配慮、配置転換)において対応されていることがわかりました。また、人員不足、業務多忙の理由により、現場からは休暇を取れる状況に無い、管理者からは人員補充が見込めなければ休暇取得促進に前向きになれない、との意見が多くあげられました。介護休暇・休業が1日単位での取得となっていることも要因の一つです。

介護をめぐる環境が多様化(要支援、要介護・支援以外のケース:施設入所までの期間、通院介助、遠方など)し、介護をする家庭環境も様々です。

相談窓口の役割が大変重要であり、本学の制度、介護保険サービスの正しい情報を提供することとあわせて、介護福祉制度利用の促進、施設の紹介(仲介)対応などを含め、第3者的な立場からのサポート(コーディネイトを含む)ことが望まれています。

多様な職種、多様な勤務体制をすべて公平に対応することは大変難しいですが、格差を少しでも解消するために、適正な情報提供や環境改善に向けた啓発活動を行い、個々の状況に応じた支援を行なうことが重要であると認識しております。

また、介護する職員の年齢は経験を積んでいるものが多いことから、人員の補充については、“人”を充てるのではなく、“人材”を充てることが重要であり、業務効率の低下を最小限する配慮を望む意見が多数上げられました。

センターの役割は、「教育・研究・医療機関として、安心・安全な医療の提供、医療の質の向上および患者満足度の向上」に繋げることです。

介護に関わらず、性別に関わらず多様な支援体制を整備することは、人材の確保に繋がる。“働きやすい職場”“キャリアが積める職場”は“働き続けることができる職場”であります。就業継続を可能とする、またやむなく退職したとしても復職ができるシステム作りが必要であることから、頂いた意見を参考にし、センター関係委員会、関係部署により検討を重ねてまいります。

1.学生

	対象	配布数	回収数	回収率
1	看護専門学校生	256	238	93.0%
2	医学部学生	691	400	57.9%
	合計①	947	638	67.4%

2.教職員(パート・アルバイト含む)

	対象	常勤	非常勤	配布数	回収数	回収率
3	研修医	92	0	92	12	13.0%
4	教員	736	0	736	330	44.8%
5	大学院および診療助手	131	0	131	66	50.4%
6	看護師	1938	141	2,079	1,716	82.5%
7	コメディカル	677	93	770	661	85.8%
8	事務	476	266	742	667	89.9%
9	その他	164	287	451	203	45.0%
	未記入				15	
	合計②	4,214	787	5,001 (内129郵送)	3,670	73.4%

- 職種の「その他」は、役員、研究技術員、メディカルコーディネーター、看護助手、看護補助者、調理師、保育士、産業カウンセラー、歯科衛生士、修道女など。

- 職員番号の頭2桁「11」の勤務形態については、認識違いであいまいなマークが多数あり集計に影響することから、すべて「3非常勤」に訂正した。

- 職員番号の記載については、個人が特定できることへの不信感から意見が書けない、という意見を多数いただきましたが、本アンケートの職員番号の利用はマークの読み取りの誤作動に対するものであり、個人を特定するものではありません。誤解を生じさせてしまい、大変失礼いたしました。今後実施のアンケートの際は、配慮いたしました。

- 休職者129名分郵送のうち、98名より回答の返信あり。



【アンケートから見えた現状】

【両立支援に必要と思われる具体的な意見】



子育てに関するアンケート



平成28年2月1日現在で、小学校6年生までのお子さんをお持つの教職員(産休・育休中の教職員を含む)を対象に、「子育てに関するアンケート」を実施させて頂きました。誠にありがとうございました。集計結果は、改めて報告させて頂きます。

皆様のニーズを把握しながら、支援の内容を検討させて頂きます。

ロールモデル カップル紹介

ご夫婦で勤務されているカップルドクターの紹介です

★家族★



K先生:大学病院神経内科 (卒後5年)



A先生:大学スポーツ医学講座 (整形外科
診療助手)(卒後5年)



息子(1歳)

★プロフィール★

K先生

聖マリアンナ医科大学病院
研修終了
研修終了間際に大学時代
の同級生と結婚
聖マリアンナ医科大学病院
にて、診療助手(大学院
生)として勤務

A先生

現在は研究休職を取得し、
スポーツ医学講座の大学
院生としてのみの活動です。
隔週で週1日、外勤で横浜
市スポーツ医科学センター
で整形外科外来を担当し
ています。

★カップルで働く醍醐味★

K先生

同職種なので、急な当直
や勉強会への参加などへ
の一定の理解がある。
休日を自宅でゆっくり過ご
すことに同意してくれる。

A先生

同じ職種・職場であり、仕
事内容や1日のスケジュー
ルが理解できるため連絡
がとりやすい。
夫婦で協力して保育園の
送迎ができる。
母校であることもあり、お
互いの医局に知り合いが
多い。

★妻への思い、夫への思い★

K先生

体力がないので、頑張り
すぎないで欲しい。
出来ることと時間的に無
理なことの線引きをして
欲しい。

A先生

激務で心身共に疲れてい
る中、できる家事はやってく
れたり、息子ともたくさん遊
んでくれて、本当に頭が下
がります。同じ学年、同じ大
学院生なので、これから専
門医試験や学位審査など
大変な時期が被ると思いま
すが、協力して乗り越えて
いけたらいいなと思います。
あとは、とにかく健康に気を
付けてもらいたいです。

★今後の目標など★

K先生

臨床医として日々の臨床
をしっかりとやっていく。
そのうえで、大学院の論
文を完成させる。
時間を上手く使って、可
能な時間は子供の成長を
楽しむ。
家族全員が健康であるこ
と。

A先生

プライベートでは、息子が
生後6ヶ月を過ぎてから毎
月親子で体調を崩してい
るため、健康な体をつくる
のが目標です(笑)
仕事の面では、今年(2016
年)中に学位論文を仕上
げ、臨床に復帰するが
目標です。



「女性医師意見交換会」のお知らせ

くつろいだ雰囲気のなかで、ワークライフバランスを考えるための意見交換の場になればと思います。

女性医師に限らず、医学生、男性医師、他の職種の参加もOKです。お気軽にご参加ください。

日時：平成28年6月17日(金)午後5時から意見交換会、午後6時から6時30分交流会

場所：教育棟5階

*ロールモデルとして、救急医学(西部病院)北野夕佳先生をお呼びしています。

お子さんも
一緒に！

●男女共同参画キャリア支援センター●

事務局044-977-8111(内線5840)、メール(ご相談・ご意見): career@marianna-u.ac.jp